

「HX（エイチクロス）」について

北大後押しし 教員が起業

北海道大で大学発の起業が活発になってきた。教員として大学に籍を置きながら、新たに起こした会社の代表取締役社長も務める初めての事例が誕生した。北大も、大学発の起業を支援する拠点を札幌市北区の札幌キャンパスに開設した。



大学発起業の社長を兼務する正規教員の第1号となった天野麻穂さん（札幌市北区の北大で）

天野さん 社長兼務 第1号

北大の正規教員が新興企業の社長を務める初の事例となったのは、8月に発足した株式会社HILO（ヒロー）だ。慢性骨髄性白血病の患者を対象に、治療に用いる分子標的薬が効くかどうかを、北大が開発した「光診断薬」で判定する業務を行う。

社長を務めるのは北大大学院医学研究科の細胞生理学教室講師、天野麻穂さん（49）。これまで民間の社長を務める特任教授はいたが、社長を兼務する北大の

たんばく質の動きを高感度で画像化し、測定可能にする

る技術だ。天野さんはこの技術に将来性を感じ、起業の準備を進めてきた。

大場教授の開発した技術に基づき、慢性骨髄性白血病患者のがん細胞に光診断薬と治療薬を投与すると、薬が効く細胞は青色に、効かない細胞は黄色に見える。患者に効かない薬や不要な薬を早めに判断でき、無駄な医療費をカットできるといふ。

70種類ほどある白血病のうち、慢性骨髄性白血病が最も患者が多く、国内に約1万人いる。患者アンケートによると、薬を処方されたが、効果がなかったり、副作用がつかつたりなどの理由で薬を変えた人は半

大学発の支援施設 開設

北海道大は先月、小樽商科大とともに、大学発の起業を支援する拠点施設「HX（エイチクロス）」を北大構内に開設した。

HXには産学連携が専門の相談員3人が常駐し、起業を考える研究者・学生の相談に応じたり、自治体や金融機関、経済団体などとの橋渡しを行ったりする。

産学連携の推進を積極的に進める宝金清博・北大学長は、開設に際して記者会見し、「北大で学んでも卒業後は道外に出る人たちが多い。大学発の起業が優秀な人材の道外流出をとどめ、地域の発展につながればと期待している」と話した。

数に上り、新会社のサービ
スに需要があると判断し
た。

HILOは札幌市北区の
北大に隣接する建物に、他
の北大発企業約20社とも
同居した。今は机と電話
しかないが、経済産業省の
外郭団体から補助金を受け
て、来年2月に診断機器や
カメラなどを購入して本格
始動する。

天野さんは「大学の仕事
と同時に、患者さんのため
に会社の業務も全力で取り
組む。大学発起業を目指す
後の人たちに勇気を与えら
れれば」と抱負を話した。